

**スクールミッション**  
「自主自立 質実剛健 友愛協調」の理念のもと、学ぶ意欲、広い視野と確かな知識・学力、他者を尊重し共に生きる態度を備え、地域社会に貢献できる人材を育成する。

**スクールポリシー**  
◎カリキュラムポリシー  
 ・卒業後の進路実現(自己実現)に向けた体系的なキャリア教育を確立する。  
 ・幅広い探究活動に取り組み、事前事後指導の精選による体験的な深い学びを実現する。  
 ・生徒が企画・運営する学校行事や海外修学旅行の実施など、生徒が主体的に互いを尊重する学びの場を創出する。  
 ・兵庫県版コミュニティスクールを展開し、地域貢献活動やボランティアなど地域と深く連携した学びを展開する。  
 ・あいさつの励行、校内環境美化の推進など、地域社会の一員として期待される人格の形成を図る。

◎育成を目指す資質・能力  
 ・明確な目標を持ち、その実現に向けて全力で取り組む強い心  
 ・広い視野から物事を捉え、計画的に考える力  
 ・体験を通じて得た自身の学びを振り返り、新たな学びへ向かう力  
 ・他者を尊重し共に生きる態度  
 ・地域社会の一員としての自覚と公共の心

◎アドミッション・ポリシー  
 ・地域社会に貢献する意欲を持ち、地域での体験活動に積極的に参加する生徒  
 ・自ら学ぶ意欲にあふれた生徒  
 ・目標の達成に向けて、他者を尊重しながら協調できる生徒

NO	観点	項目	目 標	評価	学校評議員からのご意見
1	学校経営	協働体制の確立	部や学年などの分掌間の連携が円滑に行われるよう工夫、協力する。	B	【全体】 ・教職員の自己評価が低い項目については、共通理解を図っていくことが大切である。  【開かれた学校づくり】 ・どうしたら学校のホームページを保護者が見てくれるのか、保護者に直接聞いてみるのがよいのではないか。  ・様々な教育活動について、生徒の活動の過程を伝え、保護者の評価も上がると思う。  ・ターゲットを若者にするならば、若者がどのツールを使っているのかを聞いてみるのがよい。  【学校行事の精選と適正化】 ・コロナによる制限等がなくなり、生徒の満足度が非常に上がっている。  ・海外修学旅行は、英語のよい勉強になる。中学生へのアピールにもなる。  【特色ある学校づくり】 ・来年度は、高校生と一緒に行うイベントに関して市としても、高校生の頑張っている姿を伝えていきたい。  【いじめ対応】 ・いじめ対応に関する教職員の自己評価がすばらしい。企業でも対応の仕方等について参考にしたい。
		感染症等への取組	感染症等への対策を施しながら安全安心な教育活動を実践する。	B	
2	学習指導	資質の向上	各教科、各学年での到達目標に向けた計画的な学習指導の工夫、改善を行っていく。 公開授業や研究授業、研修により教科指導の向上に努める。	A B	
		適正な生徒評価	客観的で公平・公正な評価を行い、次の目標設定に役立てる工夫・研究を行う。	B	
		個に応じた学習指導の工夫	授業実践に向けての研究と改善に努め、生徒の学習意欲向上を図る。	B	
			多様な生徒のニーズに対応する、個に応じた学習指導の工夫を行なう。	B	
3	生活指導	生徒指導方針と協働体制の確立	安全安心に配慮し学校の構成員としての規範意識や責任感を培う指導を実践する。	B	
			校則について共通理解を持ち、学校全体として個々の生徒の指導に当たる体制と雰囲気作りに努める。	B	
		生徒の内面理解	多様な生徒の実態に対応し、カウンセリングマインドをもって指導にあたる。	B	
4	進路指導	進路意識の育成	適正な進路に関する情報の提供など、生徒が自己実現に向け自ら計画的・継続的に実践する力を育てる。	A	
		進路指導体制の充実	家庭との連携をとりながら、生徒の能力・適性・興味・関心により、生徒自らが主体的に進路を選択、決定することが出来る指導を行う。	B	
5	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	学校の教育活動の方針や内容を積極的に家庭や地域に提供する。	B	
			オープンハイスクールや学校説明会等をととして、本校の魅力を広く伝える。	B	
6	危機管理体制	防災・安全対策	危機対応に対する認識を確立し、非常時に役立つ体制を作る。	B	
		防災・安全教育	防火、防災、避難訓練や講演会、教育活動全般を通して防災意識を育む。	B	
7	学校行事の精選と適正化	行事の精選、内容充実	文化祭や体育祭、校内スポーツ大会などの行事が、教育活動全体の視点から実施され、年々改善改良が図られるよう工夫する。	A	
			文化祭や体育祭、校内スポーツ大会などの行事を通して、生徒の自主性や創造性を培われるよう工夫する。	A	
8	情報教育	ICTの活用促進	ICTを適切に活用した学習活動の充実を図るため計画的で実践的な取り組みを行う。	B	
		情報モラルについて	情報の持つ意味や役割、その影響について理解させ、情報を扱う際の義務や責任についての情報モラルの育成を図る。	B	
9	特色ある学校づくり	特色ある学習活動	学校の特色化を推進するために、外部講師の活用などをととして生徒の興味関心に応える発展的な学習活動を推進する。	B	
		特色類型を生かした学校づくり	コミュニティ創生類型の理念に基づいた地域との関わりを持った特色のある教育活動を行う。	B	
10	人権教育	人権教育推進の取り組み	全校的な理解の下に、各種研修会を通じて教職員の意識の向上を図る。	B	
		人権意識の育成	3年間を見通した人権HRの実施や、人権講演会、福祉体験活動を始め、平常の教育活動全般の教育活動を通して人権を尊重する教育活動を行う。	B	
11	いじめ対応	いじめに対する心構え	いじめは人間として絶対に許せない行為であるという共通認識のもと、被害者の立場に立ち、毅然とした態度で臨んでいる。	A	
		具体的な対応	どんな些細な変化も見逃さず、いじめの未然防止、早期発見に努めている。また、いじめの事実を認識した場合はいじめ対応チームを中心として組織的に迅速に対応し、速やかに解決している。	A	

※ 学校自己評価においては、「かなりそう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」のうち、「かなりそう思う」「そう思う」と回答があった割合(%)  
 ※ 生徒アンケート、保護者アンケートにおいては、「かなりそう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」のうち、「かなりそう思う」「そう思う」と回答があった割合(%)  
 ※ 評価は、自己評価、生徒・保護者のアンケートの割合を、4段階(A:80%、B:60%、C:40%、D:20%)でおおむねの評価を行い、過年度比較等を加味し総合的に評価した。